

平成 31 年度 学校評価報告書（目標設定）

| | 視点 | 4年間の目標 (平成 28 年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|--------------|---|---|--|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 1 | 教育課程 学習指導 | <p>①課題解決能力、プレゼンテーション能力を伸長する教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事の企画・運営を生徒主体のものとし、生徒の社会性と実践力の向上を図る。</p> | <p>① 主体的・対話的で深い学びを目指す組織的な授業改善を推進する。</p> <p>① 新たな学習指導要領を見通した教育課程を作成する。</p> <p>① プログラミング教育研究推進校として地域等への情報発信を図る。</p> <p>② 学校行事の準備や運営について効率的な計画を立てるとともに、生徒の主体性を生かした運営を行う。</p> | <p>① 生徒による授業評価を生かした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。</p> <p>① カリキュラムマネジメントの考えに基づき、新しい教育課程の編成を行う。</p> <p>① プログラミング教育を推進し、各教科において論理的な思考を促し、協働による授業の実施を目指す。</p> <p>② 生徒との意見交換を踏まえて適切な指導計画を立てるとともに、実施後の振り返りを次年度に生かす取り組みをし、好ましい人間関係の育成に努める。</p> | <p>① 授業評価の「生徒主体の授業の工夫」の項目で肯定的意見が前年を上回ったか。</p> <p>① 新たな教育課程の編成ができたか。</p> <p>① プログラミング教育の成果を地域等へ発信することができたか。</p> <p>② 実施後のアンケートで、行事の準備日程の設定等について肯定的な意見が多数を占めたか。</p> |
| 2 | 生徒指導・ 支援 | <p>①生徒一人ひとりのニーズに応じた支援のため、教育相談コーディネーターを核とした生徒支援体制の構築に努める。</p> <p>②部活動の活性化をととして社会性の育成を図る。</p> | <p>① 居心地の良い学校・学級づくりを目指して支援体制を充実させる。</p> <p>② 学業との両立に留意し、部活動の適切な運営に努める。</p> | <p>① 生活アンケート調査の分析結果をもとに生徒の現状を把握し、課題の解決策を策定する。</p> <p>② 適切な休養日を含めた年間指導計画にそった活動を行う。</p> | <p>① 生徒の抱える課題が解決の方向に向かった例が複数あったか。</p> <p>② 部活動アンケートで「部活動の状況に満足」という回答が半数を超えたか。</p> |
| 3 | 進路指導・ 支援 | <p>①進路指導の充実を図ることで、生徒が自らの将来を積極的に開拓し、実現につなげる能力を育む。</p> | <p>① 自らのキャリアを意識させるための体系的な取組の確立を図る。</p> <p>② 総合的な学習の時間において探究活動の充実を図る。</p> | <p>① 総合的な学習の時間を活用して職業観の育成を図り、将来の進路に対する関心を喚起し、インターンシップや各種講演会等への自発的参加を促す。</p> <p>② 総合的な学習（探究）の時間を利用し、アクティブラーニングの手法を活用した探究活動をおこなう。</p> | <p>① インターンシップでは看護医療・保育系の希望者全員の受け入れ先を確保できたか。</p> <p>② 探究的な活動の成果を発表する機会を持つことができたか。</p> |
| 4 | 地域等との 協働 | <p>①地域や関係機関の教育力を生かした連携を推進し、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりを進める。</p> | <p>① 防災や交通安全に対する意識を高めるために地域や関係機関との連携を推進する。</p> | <p>① 交通事故件数の減少に向けた生徒の意識向上を図り、通学路の安全点検や自転車保険加入の周知等を実施する。</p> <p>① 防災意識を高める機会を提供し、地域と連携した防災の取組を活性化させる。</p> | <p>① 通学路の安全点検や交通安全講話を実施できたか。</p> <p>自転車保険加入義務化を周知できたか。</p> <p>① 避難訓練などで生徒の防災意識を高める講話等を実施できたか。</p> <p>① 地域の防災訓練に生徒及び教員が参加できたか。</p> |
| 5 | 学校管理 学校運営 | <p>①職員一人ひとりが意欲と責任をもって安心安全な環境づくりに取り組み、課題解決に向けて積極的に取り組む学校文化を形成する。</p> | <p>① 校内業務における事故防止に向けた体制作りを進める。</p> <p>① 円滑な業務遂行体制を確立し、職員の働き方を考える。</p> | <p>① 事故の未然防止に向けて、演習形式を取り入れた実践的な研修の機会を充実する。</p> <p>① 計画的な業務の遂行により、職員の働き方改革を推進する。</p> | <p>① 事故防止会議において職員の事故防止に関する理解度を高めることができたか。</p> <p>① 働き方改革の実現に向けて、時間外の勤務時間の把握ができたか。</p> |